

CFOメッセージ



財務・資本戦略で利益拡大を支え 「エクセレントカンパニー」の実現へ

専務取締役 CFO 青木 貞男

「バリューアッププラン」の財務・資本戦略

今後6年間にわたり推進する新中長期経営計画「バリューアッププラン」において、財務・資本戦略の要となるのは、外部環境の変化に耐えながら成長投資を継続できる強固な財務基盤の確保と、資本効率の改善に向けた利益率向上へのアプローチです。6年間累計で約1,950億円のキャッシュイン/アウトを想定したキャピタルアロケーションに基づき、成長・戦略投資と株主還元を管理するとともに、キャッシュ・フローマネジメントの強化を図り、資本効率を高めていきます。

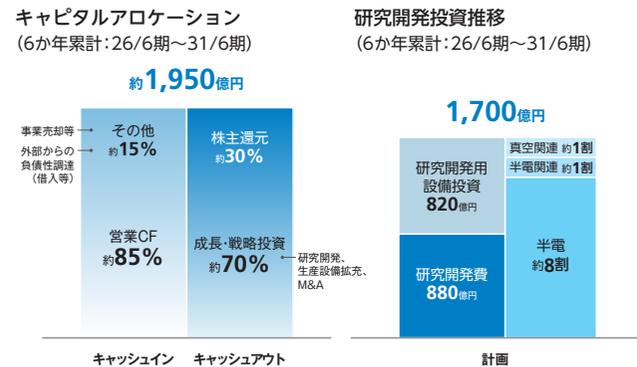
資本効率改善の目標は、計画最終年度(2031年6月期)における「ROE16%」の達成です。財務安定性の観点から、引き続き自己資本水準の維持向上を図る必要がありますので、基本的にROEの改善については、利益率の向上により実現していく方針です。

バリューアッププランでは、低採算事業の縮小・撤退や生産拠点の再構築など「事業改革」による事業ポートフォリオの転換と、モジュラーデザインの推進など「生産改革」による効率改善を通じて収益性を高め、これを土台とする「成長戦略」で利益をさらに拡大していきます。私たち管理部門は、これらの打ち手による収益性向上の進捗を数値面からモニタリングし、利益、利益率の拡大に向けて推進する役割を担います。同時に内部施策として、棚卸資産回転日数の短縮化を図るなどキャッシュコンバージョンサイクル(CCC)の管理・改善に努め、資金効率の改善により利益拡大に向けた取り組みを支えます。

キャピタルアロケーションとリスクの低減

キャピタルアロケーションでは、6年間累計約1,950億円のキャッシュインについて、営業キャッシュ・フローで約85% (約1,650億円)、借入による調達や事業売却等で約15% (約300億円)を見込んでいます。比較的ボラティリティが高い業種に属するULVACは、外部環境による影響を受けて営業キャッシュ・フローに大幅な変動が生じる可能性が高く、借入等により過不足を調整する考えです。この比率は必ずしも固定的でなく、キャッシュ・フローの状況に合わせて変化させますが、今計画では積極的な成長・戦略投資拡大に向けて、キャッシュインも増加させていく考えです。

一方、キャッシュアウトについては、成長・戦略投資等へ約70% (約1,350億円)、株主還元へ約30% (約600億円)を充てる計画です。



この成長・戦略投資は、研究開発用設備投資約820億円に加え、生産設備の拡充とM&Aの実施等を想定したものです。成長分野である半導体電子事業への開発投資、設備投資増強と同時に、M&Aを含む戦略投資の実行も打ち出し、大きな金額を見込んでいる点が特徴です。

そして6年間の研究開発投入資金については、上述の研究開発用設備投資820億円に研究開発費880億円を合わせた1,700億円を想定し、投資対象として半導体電子事業へ約80% (約1,360億円)、半導体電子関連(分析装置、マテリアル等)と真空関連へそれぞれ約10% (約170億円)の分配を予定しています。このうち利益の拡大と高成長を牽引するのは、半導体電子及び半導体電子関連ですが、真空関連もポンプや電源などのコンポーネント分野での安定利益が見込まれ、半導体電子との事業間シナジーによる寄与が期待できます。

社内では、従前から投資案件について「投資委員会」による検討・審議を経て実行する体制を設け、リスクの低減を図ってきました。今後は、研究開発やM&Aも含め、投資回収及び収益寄与の観点から進捗のモニタリングを強化すべく、仕組みを作り、大規模投資によるリスクを低減していきます。

将来を見据えた中長期の財務・資本戦略

半導体電子事業への積極的な開発投資によって技術的優位性を確保していく取り組みは、一定の時間を要するため、その成果はバリューアッププランの期間中に表れるものだけでなく、その後の進展を待つものもあります。将来を見据え、積極投資を緩めずに継続していくことが肝要と考えています。

中長期的な財務・資本戦略の基本は、事業の成長をしっかりと支え、その成長に必要な投資余力をきちんと確保することであると認識しています。これを踏まえて私たち管理部門は、財務基盤の拡充・強化を図るとともに、企業価値の拡大に向けた全社の取り組みをサポートし、「エクセレントカンパニー」を目指す考えです。

なおアルバックは、2025年4月に格付「A」(シングルAフラット)を取得しました。今後バリューアッププランの着実な遂行を通じて資本市場における信用力をさらに高め、将来的に財務レバレッジをより効かせた資本政策を視野に入れながら、「エクセレントカンパニー」として新たな成長ステージへ飛躍してまいりたいと考えています。